

# 天山の史跡

2014年現在までに掘り起こした。

文責 井上元生 2014. 2. 1

**9. 西方寺**  
 約1340年白鳳年間(645-710、日本書紀に表われない元号)法相利生上人が開基した地方屈指の巨刹であった。奉安の本尊は小松内府重盛の守護仏であったが、のち故あって菅原道真の末裔信永に伝わり守り本尊とした。室町時代末期中世の騒乱の時炎上した。その後、廃絶していたが、480年前文禄年中(1593-1596)に浄土宗の高僧行明上人が再興した。平成25年(2013)10月吉日に第35世住職顕誉光洋は晋山落慶大法要(法然上人800年大遠忌、行明上人450回忌)を奉修した。(中世の騒乱:史跡① 菊池武政の戦跡 ⑤柴田城址が菊池武光の砦ということからも中世の騒乱時の炎上は史実と思われる)

**8. 高木神社** 天山の産土神である。祭っている神様は、高皇産(たかむす)靈(びの)尊(かみ)(タカムスミノカミ)である。延宝八年(一六八〇)五月に勧請建立されている。明治以前は大行事宮(だいぎょうじぐう)と呼ばれていた。

**7. 猿田彦大伸**  
 天保15年3月 八尋卯七建立  
 邇邇芸尊が天降りしようとしたとき、天の八衢(やちまた)に立って高天原から葦原中国までを照らす神。その神が国津神の猿田彦。高木神社入口道端

**6. 庚申尊天**天明5乙巳歳(1785)3月建立 中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のこと。村組鬼木久文宅入口道端

**5. 柴田城址** 1372年(応安5年)菊池武光らの砦(不明)。戦国末期(~1578)は筑紫氏の端城にして村山近江守(むらやまぢかえのかみ)の子 弾正(だんじょう)の城であった。

**3. 石灯笼(いしどうろう)**  
 1843年(天保十四)癸卯年八月秋月の商人たちが、宣伝のために建てた。

**4. 柴田川の合戦**  
 天正6年(1578)秋月種実 1000人余り、柴田の城に本陣を置き、岩屋城主高橋紹運、立花の城主戸次丹後入道道雪がこれを聞いて、軍勢を針摺に押し出し、川を隔て矢軍(やいくさ)を仕かけるが、後には敵味方入亂れ、川中にて散々戦う。「蘆の原、兵(つわもの)どもの夢のあと」

**1. 長塚 応安5年(1375)ごろの戦場**  
 菊池武政、兵数千にて来たりて今川・少弐をたおした。田の畦に石が長く沢山(高さ1.8m、長さ13m、幅3.6m位)あった。いにしえ太刀を埋めし塚なりと云う。現在 天山402番地(田)

**2. 日焼遺跡 筑紫野最古の農村**  
 副葬された壺や甕棺の特徴から筑紫野市内で最も古い弥生時代の遺跡。住居跡など集落の中心部は見つかっていませんが、市内で最初にコメ作りを始めたムラのお墓と考える。

**現在県道112号線**  
 朝倉軌道：1908年から1940年まで軽便鉄道が敷かれていた。  
 多目的広場(下ムチカケ池)

**20. 六部供養塔(ろくぶくようとう)** 薬の知識を持った坊さん俗名定八良さんは1770年(天明7年6月11日)に亡くなられ、村人によって、手厚く葬むられ、供養されたと思われます。言い伝えによると『歯が痛いときには「六部」さんにお参りすると、痛みが治まる』と言い伝えられています。高山宅地内

**12. 童男男女岩** 紀元前221年秦の始皇帝が不老不死の薬を求めて遣わした徐福伝説で少年少女が来たといわれる岩  
**13. のろし台跡**  
 文政5年(1808)8月15日イギリスの軍艦フェートン号事件をきっかけに、長崎の事件を知らせるため、長崎から小倉までの通信手段としてのろし台を作った  
 (烽火山-小峰-風配-勇猛山-小坂峠-日の隈山-朝日岳-天山-四王寺-ショウケ越-龍王山-六ヶ岳-石峰山-霧が岳)



**10. 天山古墳群**  
 1号墳~7号

**11. 一寸(いっすん)あやめ**  
 大正の始めころ(1913)まで自生していたが、「不老長寿の薬」という評判が高くなり、あちこちから採りに来たので、今はない。

**15. 峰古野1号墳(みねこの)** 古墳のさい新モデルである。峰古野1号墳は横穴式石室ですが、竪穴式石室と横穴式石室の特徴を持っている。

**16. 地祿神社**  
 明和四丁亥年(1767年)本神社は、菅原道真公をご祭神として、創立され、信徒(氏子)五十六名、例祭を九月十九日とした。境内には、水天神社があり、祭神は、岡衆女(みつはのめ)で由緒は不明である。

**17. 金剛城**  
 『この土には塩分が含まれているので大昔はここまで海岸であった』との言い伝えがある。

**18. えびす像**  
 建立年月日は不明です。鬼輝男宅地内

**○日田街道(日田往還)** 日田往還(ひたおうかん)は日田天領(てんりょう)へ集まる街道の総称です。全国街道のベスト3に入るほどといわれた。そのきっかけとなったのは、文政八年(1825年)3月薩摩藩主嶋津斉(なり)興(おき)の参勤交代(お下り)からです。

**19. 観音像** 四国33カ所を模して、天山33カ所に観音像をお祭りしたと思われる。現在、西方寺敷地内、旧下組熊谷氏敷地内、井上秀貞氏裏の経塚内、井上元生氏宅倉庫前、尾形家宅地内、鬼木輝男氏所有地竹林内、鬼木富貴子氏宅地内の数基が確認される。

7

8

9

6

10

11

12

13

14

14. 蘆城城址 詳細は不明

4

5

3

20

19

18

16

15

17

1

重ね池

芋が谷池